

# 山と博物館

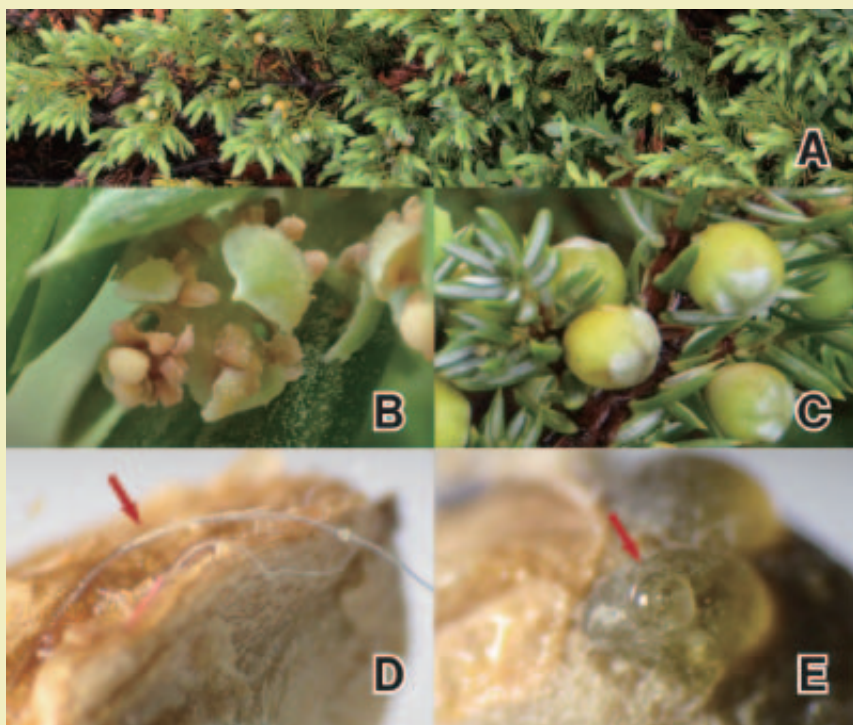
「山と博物館」は自治会などを通じ全戸配布されるほか、市役所および関連施設で配置配布しています。また博物館公式 Web からご覧いただけます。

2021  
**春号**  
第 66 巻 1 号

無料  
Free

表紙の1枚 ..... 1  
・高山植物ホンドミヤマネズの「べたつき」は何のため?  
さんばく研究最前線 ..... 2・3  
・センサーカメラを用いた野生動物の観察  
～大町市内の野生哺乳類のいま～  
特別展特集 ..... 4・5  
・北アルプスに生きた動物の記録  
～さんばく収蔵コレクションーのみどころ

北アルプス フィールドガイド ..... 6  
・“水が生まれる信濃おおまち”に伝わる伝説  
泉小太郎 ゆかりの地 探訪  
博物館のひろば 友の会だより ..... 7  
年間スケジュール ..... 8



高山植物ホンドミヤマネズの  
「べたつき」は何のため?  
ホンドミヤマネズ(A)、雄花(B)、球果(C)、粘液(D)、  
粘液の付着の様子(E)

千葉 悟志

ホンドミヤマネズは、常緑性木本植物で、亜高山帯～高山に生育する雌雄異株植物です。雄花をつける株と雌花をつける株があるというわけです。

雌花はやがて硬い球果（肉質球果）となり、黒紫色に熟すまでに2年を要すと言われています。薄い茶褐色の若い球果は指で潰そうとしても簡単に潰すことはできません。そこで、カッターで切れ目を入れ、球果を割ってみると、なかの種子がべとつき、その粘液は鉛細工のように切れずに良く伸びる上、ハイマツのような独特の匂いがします。

その種子を水道水に2週間ほど浸けてみると、球果は柔らかくなり、簡単に指で潰すことができるようになりました。種子の粘液は水にさらしても粘着性がなくなることはありませんでしたが、乾燥すると粘着性を失い、水に濡らしても再び粘着性が戻ることはありませんでした。また、種子には楕円形の付属体があり、針でつつくと破れ、そこから粘性の強い透明な液が出てきました。この付属体の部分は乾燥に強

いようで、取り外して1週間後に穴をあけると粘液が出てきました。どうやら、種子はべたつく必要があるようですが、いまのところ、参考になるような文献や報告などはないようです。動物（鳥を含む）に食べられて、うんちを経由して広がっているのか、動物の体などにくっついて広がっているのか、それとも別の方法で広がっているのか、はたまたべたつくことで動物に食べられないように防御しているのか。真相はなぞですが、山でじっくり観察しながら思いを巡らしてみると、おもしろい事柄にたどり着くことができるかもしれません。

さて、今夏は企画展「北アルプス誕生とそこに息づく高山植物のものがたりー花、果実、種子、芽生え ときどきふしぎ発見！」を開催します。期間中は、ミュージアムガイドやさんばくゼミナール（講演会）を開催します。是非、足を運んでいただければと思います。（市立大町山岳博物館学芸員）

※球果はNPO法人白山高山植物研究会が環境省より許可を得て採取し、当館が研究（高山植物の生活史研究）のため、提供を受けたものです。

- ◆市立大町山岳博物館は、月曜日と祝日の翌日が休館です。ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館となります。
- ◆開館時間は、午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）です。
- ◆毎月第3日曜日の「家庭の日」とその前日の土曜日は、「大町市民無料開放デー（長野県民割引）」として、大町市民の方は観覧料が無料です。また、この日は長野県民の方も団体割引料金で観覧いただけます。今季の該当日は4月17・18日、5月15・16日、6月19・20日です。この機会にぜひご来館ください。
- ◆次の方は通年、いつでも博物館を無料で観覧いただけます。《障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名/未就学児/大町市内小・中学校に通う児童・生徒/大町市内在住の65才以上の方と高校生》このほかにも観覧料の各種割引があります。詳しくは受付窓口でお尋ねください。



博物館施設案内  
はこちら

## センサーカメラを用いた野生動物の観察 ～大町市内の野生哺乳類のいま～

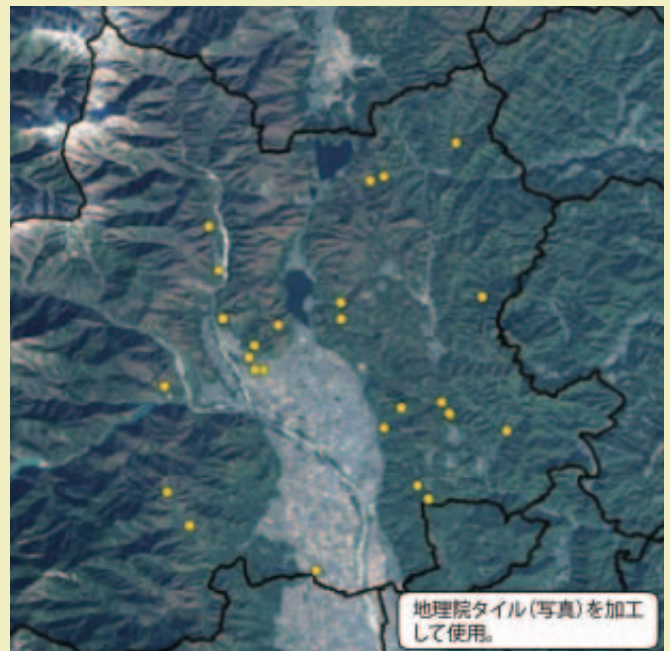
大町市は西に北アルプス、東に大峰山地があり、そこではカモシカやタヌキなどの様々な哺乳類が生息しています。市内に生息する動植物種については1984年（37年前）に「大町自然史」で編集され、リスト化されています。

しかし、「大町自然史」が編集された頃と比べ、道路整備の状況や人の移動状況が大きく変化し、併せて近年は小雪が続いていることから、彼らの生息環境は大きく変化してきていることが考えられます。

そこで今回は、市内の中・大型哺乳類相の把握を目的として、2020年の5月から10月にかけて実施した、生息状況調査についてご紹介します。

哺乳類の多くは夜行性であるため、どうしても夜間の調査が必要となります。そこで今回はヒミツ道具である“センサーカメラ”を用いて調査を実施しました。センサーカメラとは、熱を感知した際に作動して、夜間であっても赤外線を利用して画像や動画を記録する機能を持ったカメラのことで、防犯対策や野生動物の観察の分野で発展してきました。しかし、一昔前までは1台5万円程度することもあったため、高嶺の花のような存在でした。しかし近年、技術の向上により値段が大幅に下がり、安いものでは1台7,000円程度から流通するようになった優れものです。

本研究では、このセンサーカメラ5台を利用して、市内の田畑や河川敷、山間部において、動物が通過する可能性が高い場所（けもの道）に1カ所あたり7日間を設置して撮影を行いました。（国がモニタリング調査などを実施している国立公園内は、調査の対象外）



調査地（計33カ所）

調査の結果、27/33（約80%）の調査地において、計11種の中・大型哺乳類の姿を確認することができました。

種名	数	種名	数
ニホンザル	51	ツキノワグマ	4
ニホンノウサギ	2	ニホンカモシカ	10
タヌキ	28	ニホンジカ	43
キツネ	27	イノシシ	9
テン	1	ハクビシン	6
アナグマ	1		



### 赤外線センサーカメラ

動力：単三電池 8本  
最大待機時間：約6ヶ月  
記録メディア：SDカード  
画質：2000万画素  
防水性：IP66



イノシシ (2020/5/21)



ニホンジカ (2020/5/24)



ニホンノウサギ (2020/7/21)



ニホンザル親子 (2020/8/21)



ハクビシン (2020/9/5)



ニホンカモシカ (2020/9/14)

37年前の中・大型哺乳類のリストでは、イノシシ、ニホンジカ、ハクビシンの記載がされていませんでしたが、今回の調査で姿を記録に残すことができました。

2020年の調査では確認されませんでした。白馬村や池田町、小川村などの隣接する市町村においてアライグマの捕獲情報が増加しています。アライグマは特定外来種に該当しており、生態系を大きく脅かす種であるとともに、農作物にも甚大な被害をもたらします。本研究を継続することにより、在来種の生息状況に加えて、外来種の侵入状況についてもモニタリングを続けたいと思います。

**WANTED!!**

兵庫県三田市にて撮影

特徴 ・ タヌキ程の大きさ  
・ 縞模様のしっぽ  
・ 甘いもの好き  
・ 夜行性

謝辞：今回の調査において、カメラの設置許可にご協力いただきました、各自治会長、土地所有者の方々に感謝申し上げます。（学芸員 藤田達也）

# 北アルプスに生きた動物の記録 —さんぱく収蔵コレクション—のみどころ

開催期間 4月24日(土)～7月11日(日)

栗林 勇太

## 山岳博物館収蔵庫

北アルプスの麓の大町市。全国的にも珍しい山岳地帯の下、漠然と自然豊かなイメージがある大町市ですが、この北アルプスや麓の大町市周辺では、どのような生き物が暮らしてきたのでしょうか。また、暮らしてきた生き物には変化がみられたのでしょうか。

山岳博物館では、開館以来長きにわたって、北アルプスやその周辺地域に生息する動物の資料を収集・保管してきました。

特別展では、これまでに収蔵されてきた哺乳類・鳥類などの剥製や昆虫の標本などについて、常設展では公開されていない種を中心に展示します。

ここでは、展示予定の剥製の一部について紹介します。

## 1. 北アルプスの麓大町市周辺に暮らす生き物

自然豊かな大町市周辺にはどのような生き物が暮らしているのでしょうか。ここでは、名前は聞いたことがあるけど、実際に見たことはない、といった動物を紹介します。

### (1) オオムラサキ

日本の国蝶にも指定されているオオムラサキ。とても美しい色合いのチョウで、山岳博物館周辺でもまれに見ることができます。



オオムラサキ

### (2) コウモリ

名前は耳にしますが、コウモリの顔を間近で見た人はそう多くないと思います。街中や森林、山など、コウモリも場所によって生息する種類が異なります。



ウサギコウモリ

## 2. 北アルプスならではの生き物

標高2000mを超える北アルプスの山々。そこには、ライチョウをはじめ高山帯でしか見ることのできない貴重な生き物もいます。



ホシガラス

私たちの身近なところにいるカラス。実は標高2000mを超える高山帯にもカラスの仲間がいます。

カラスのなかまは、市街地で見られるハシボソガラス、ハシブトガラス、オナガ、里山などで見られるカケス、そして、高山帯に行くとホシガラスと呼ばれるカラスの仲間を見ることができます。

## 3. 見られなくなった生き物

自然豊かな北アルプス周辺において、見られなくなった動物はいるのでしょうか。

### (1) トキ



トキ

絶滅した動物の代表のトキ。実は過去に大町でも見られていました。写真の剥製は大正時代に美麻村（現大町市美麻）で採取されたトキの剥製で、大町市の文化財に指定されています。

### (2) ブッポウソウ

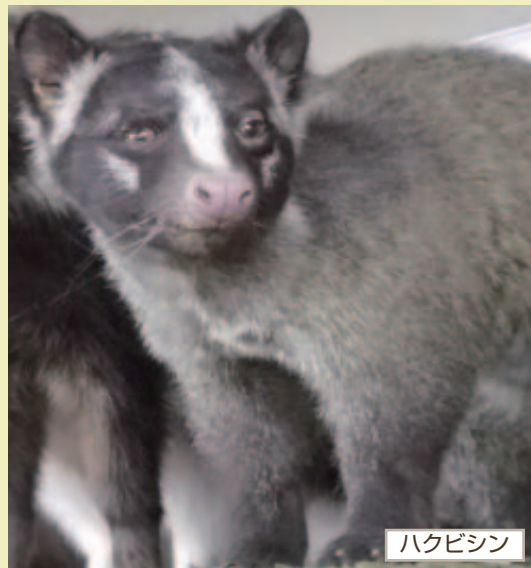
日本国内でも絶滅の危険性が高いとされている（絶滅危惧ⅠB類）幸せの青い鳥。長野県内では栄村や天龍村など限られた場所では現在生息が確認されていません。写真の剥製は、昭和28年に大町市社にて採取されたブッポウソウの剥製で、過去に大町でも生息が確認されたことが分かります。



ブッポウソウ

## 4. 外から来た生き物

国内でも、外来種が問題となっています。この地域では外来種の侵入が見られるのでしょうか。



ハクビシン

外来種とされるハクビシン。市内でも昭和59年に発行された大町市史には記録がありませんでしたが、近年、市内でも目撃があいついでいます。

ここでは、特別展で展示を予定している一部の動物の説明をさせていただきました。

特別展では、このほかにたくさんの動物の剥製とともに、皆様のお越しをお待ちしております。

（市立大町山岳博物館 学芸員）

## 「水が生まれる信濃おおまち」に伝わる伝説 泉小太郎 ゆかりの地 探訪

## 「水」にまつわる北アルプス山麓の伝説

安曇野周辺は古くからの民話が数多く伝承されている「民話の宝庫」です。その安曇野の北端に位置する大町市は、西側は北アルプス、東側は大峰山地に挟まれた山間のまちです。こうした地理的な条件から、大町市周辺の民話には山岳とかかわり深いものが数多く残されています。民話とは「民間説話」の略語で、昔話や伝説や世間話を含んだものともされます。ここでは伝説に焦点をあてたいと思います。伝説とは、もともと真実と信じられている事件などについて伝えられているもので、古来の「いつたえ」や「いわれ」にあたります。

今回は北アルプス山麓の伝説の中から、「水」にまつわる「泉小太郎」のお話と、その伝説に関係するフィールドをご紹介します。

現在、大町市では持続可能な開発目標「SDGs」の達成に向け、産学官民の共創による「信濃おおまち みずのわプロジェクト」を発足し、“水が生まれる信濃おおまち”をテーマに持続可能なまちづくりを目指しています。新緑の季節、こうした“水”にちなむ身近な伝説ゆかりの地を訪ねてみてはいかがでしょうか。

## 「泉小太郎」伝説とゆかりの地

北アルプス山麓に伝わる「泉小太郎」伝説のひとつは、おおむね次のようなあらすじのお話です。

「景行天皇の御世12年（古墳時代）まで、安曇野・松本平一帯は湖でした。この湖にいた犀龍を母、高梨という所の池にいた白龍王を父とする日光泉小太郎は、鉢伏山で生まれて城山周辺で育ちました。やがて小太郎が成長すると、小太郎を背中に乗せた犀龍は山清路などの大岩を突き破ります。湖の水が犀川となって日本海へ流れ落ちて平野が現れると、人びとはそこに田畑を開拓して次第に村里ができるようになりました。」

【『信府統記』〈享保7～9(1722～24)年編纂)】

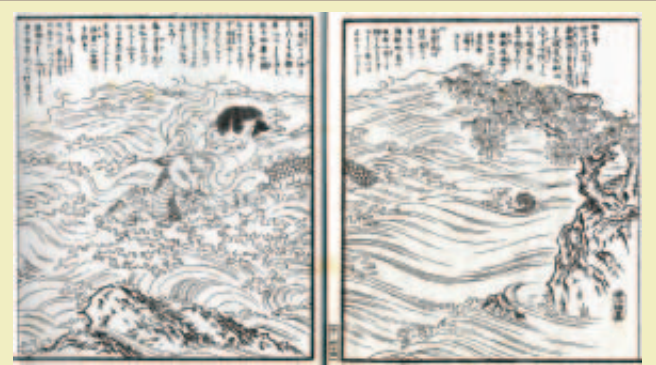
これに類似や関連する伝説は大町市や北安曇郡、安曇野市や松本市のほか、上田市など長野県内各地に伝わっています。もちろん古墳時代に安曇野・松本平一帯が湖であった事実はなく、史実とかけ離れた荒唐無稽なお話ではありますが、大町市周辺にはこうした伝説にちなむ場所が伝わります。

大町ダムの北から流れて高瀬川にそそぐ尾入沢は、小太郎と母である犀龍が対面した場所といわれています。

また、諏訪大明神が変身した犀龍と大日如来の化身である白龍王がともに入って姿を隠し、その子どもである小太郎が後に



尾入沢  
尾入沢大橋にて(大町市平)



『善光寺道名所図會』巻之二より

嘉永2(1849)年【復刻版所蔵：市立大町図書館】

上の図は犀川の地名由来の一説を記した箇所の一頁です。ここには、本文でご紹介した「泉小太郎」伝説とは一字違いの人物を主人公とした別のお話「泉小次郎(泉親衛)」伝説が記されています。挿絵は、源頼朝に命じられて犀川にすむ「犀」を捕らえる小次郎こと親衛のようすを描いています。泉親衛は鎌倉時代初期の信濃国の武将で、その勇猛果敢な逸話から後世になって大力無双の豪傑と称えられ、種々の伝説が生まれています。

大町市を含む安曇野など松本盆地周辺の地形由来譚や治水譚・開墾譚ともいえる洪水伝説や蹴裂伝説、小太郎らを主人公とした英雄伝説については、今回紹介した「泉小太郎」伝説の類話が現在までにさまざま伝わっています。その中において、ここに挙げた『善光寺道名所図會』や『信府統記』〈享保7～9(1722～24)年編纂)など、江戸時代のいくつかの書物が最初期の記録です。

こうした伝説などをモチーフにして、児童文学作家の松谷みよ子さんが創作民話作品「龍の子太郎」〈昭和35(1960)年〉を著したことで、「泉小太郎」伝説は広く国内に知られるようになりました。

鉢伏権現の再誕と明かして姿を隠したのが、常盤泉にある仏崎観音寺の仏穴とされます。ここは、現在は立ち入ることができませんが、本堂の背後の岩壁に設置された急な石

段を登った先にある窟(岩屋)とも呼ばれる小さな岩窟といえます。さらに、



湖の干拓を果 仏崎観音寺本堂と仏穴(窟・岩屋)への石段(大町市常盤)

たした後の小太郎が暮らした場所に人びとが小太郎の霊神をまつて建立したのが、池田町会染十日市場にある川會神社とされます。



こうした伝説はなぜ生まれ、川會神社(北安曇郡池田町会染)どのように現在まで伝承されてきたのでしょうか? 「泉小太郎」伝説やその類話の中には、ほかの多種多様な説話伝承の要素を取り込みつつ、古来の水分神や真言密教系の修験者等とかかわり深い各地の神社仏閣や山河と結びつきながら伝えられたことをうかがわせるものがあります。

歴史ロマンあふれる伝説には興味がつきませんね。

(市立大町山岳博物館 学芸員 関 悟志)

# 博物館のひろば

学校との連携授業を実施しました  
令和2年11月17日～12月17日



11月17日～12月17日の間に、市内の小学校を対象として7回の連携授業を開催しました。

大町市の街並みや歴史、地質や生き物について、学芸員と専門員が解説を行いました。解説後の時間では、多くの質問を投げかけてもらうことができ、自分達が生活している大町市のことを、より深く知ってもらうためのきっかけ作りの時間とすることができたと思います。今後も楽しみながら学んでもらえるための授業内容・解説方法の向上を心掛けていきたいと思います。

職業体験実習を受け入れました  
令和2年11月24・25日



当館では主に近隣市町村の学生を対象に職場体験実習の受け入れを行っています。11月24・25日には白馬中学校の実習生2名の受け入れを行いました。体験内容として、付属園で飼育している動物が食べる飼料の調理や、飼育舎内の掃除などを行っていただきました。

普段接することのない人とのコミュニケーションや動物の世話など、馴れないことの連続ではありますが、新しいことへの挑戦は、将来社会に出た時に必ず役立つかと思えます。当館はそんな学生たちの応援を続けていきます。

山の環境に関する講義を行いました  
令和2年12月2日



12月2日に、長野県林業大学の2年生が来館し、館長と学芸員が山の環境に関する講義を行いました。

地球規模での温暖化が叫ばれる中、森林、里山及び山岳といった山を巡る情勢は大きく変貌しています。林業大学では、山と人とがつながる社会の実現に貢献する人材の育成に取り組むため、「山の環境学」として山に関する様々な環境について学ぶ学習プログラムを展開しています。

当日は、山に関する水循環と生き物についての解説を行いました。今後も学校と協力し、未来を担う人材の育成に貢献してまいります。

## さん ぱく 山博友の会だより

当会またサークル4団体（ボランティアの会・烏帽子の会・花めぐり紀行・山岳文化研究会）の活動は、博物館公式HPでご覧いただけます。

### 探鳥会 in 大峰

この度は大町市のお隣、池田町の大峰で探鳥会を開催します。定点的な形態で行いますが、状況により花岡山林道などへ移動して行きます。友の会が会員向けに開催する春の自然観察会ですが、非会員でも体験入会が可能です。ご興味のある方は、友の会事務局までお問い合わせください。

日時：令和3年5月9日（日）午前8時～正午

開催場所：大峰高原白樺の森と周辺（大峰高原小鳥の森）

対象：友の会会員

募集人員：20名（定員になり次第、締め切ります。）

講師：栗林勇太さん（市立大町山岳博物館学芸員）

参加費：無料

持ち物：筆記用具、雨具、防寒着、日よけ（帽子・傘等）、観察道具（図鑑、双眼鏡などある方）、飲み物、行動食、敷物（ビニールシート、簡易椅子など）

申込み：お問い合わせは友の会事務局まで

TEL・FAX 0261-23-6334



その他

※少雨決行とします。集合・解散は現地となります。コロナウイルス感染症の状況により中止する場合がございます。実施の際にはマスク着用でご参加ください。体調不良のある方は参加を見合わせてください。

# 2021年度 博物館年間スケジュール

年間スケジュールは変更となることがあります。今後発行される「山と博物館」「広報おまち」「山岳博物館ホームページ」などをご覧ください。

2 階  
ホール

## さんばく研究最前線 —北アルプスの自然と人 トピックス—

博物館からの最新の研究成果や話題・情報をご覧ください。パネル展示コーナーです。3ヶ月ごとに内容を入れ替えながら、博物館スタッフが「北アルプスの自然と人」をテーマとした各分野の調査研究や資料収集などについてご紹介します。

月 (家庭の日)	常設展・企画展・関連イベント	講座・観察会・展示会など
4月 (17・18)	<p><b>特別展「北アルプスに生きた動物の記録 —さんばく収蔵コレクション—」</b></p> <p>4月24日(土)～7月11日(日)</p> <p>■ミュージアムトーク 4月24日(土)、5月16日(日)、6月20日(日) 時間：1回目10:00～、2回目14:00～ 会場：市立大町山岳博物館 特別展示室 ※入館者対象(通常の観覧料が必要です)・申込み不要</p> <p>■付属園まつり 5月1日(土)～5月5日(水・祝) ◆ふそくえんクイズ(全日9:00～16:00) ◆ライチョウガイド(全日9:00～17:00) ◆ワークショップ 5月1日(土)・3日(月・祝) 10:00～12:00 ◆どうぶつ観察ツアー 5月2日(日)・4日(火) 11:00～14:30～ ◆おおまびょんと遊ぼう 5月2日(日)・4日(火) 11:30～15:00～ ※参加無料・申込み不要</p> <p>■鷹狩山自然観察ツアー 5月2日(日)・4日(火) 時間：9:00～10:30 対象：小学生とその保護者(定員20名) ※参加無料・要事前申し込み</p> <p>■標本づくり講座 6月5日(土)・12日(土) 時間：13:00～16:30 会場：市立大町山岳博物館 講堂 対象：両日参加可能な方(定員15名) ※参加無料・要事前申し込み</p>	<p>■友の会総会記念講演会「大町市にみる岳・野・湖・山」 日時：4月18日(日) 13:00～15:00 講師：矢野 孝雄 氏 会場：市立大町山岳博物館 講堂 対象：大人(定員50名) ※参加無料・要事前申込み</p> <p>■さんばく子ども夏期だいがく「超！蝶観察会」 日時：8月1日(日) 10:00～正午 会場：大町公園・市立大町山岳博物館 周辺 対象：小学生とその保護者(定員20名) ※参加無料・要事前申込み</p> <p>■自然ふれあい講座 「みんなで温暖化ウォッチセミの抜け殻を探せ！」 長野県環境保全研究所・山岳博物館共催事業 日時：8月4日(水) 10:00～正午 会場：大町公園・市立大町山岳博物館 周辺 対象：小学生とその保護者(定員20名) ※参加無料・要事前申込み TEL：026-239-1031</p> <p>■親子地学教室 日時：9月12日(日) 9:00～ 会場：箆川の川原 現地集合 対象：小学生とその保護者(定員20名) 参加費：1組500円 ※要事前申込み</p> <p>■山岳博物館70周年記念講演会① 「エヴェレストが教えてくれたこと」 講師：国内初エヴェレスト登頂者 平林克敏氏 日時：9月9日(土) 13:00～15:00 会場：大町市文化会館 対象：どなたでも ※参加無料・要事前申込み</p> <p>■山岳博物館70周年記念式典・ 講演会②「(仮)オーストリアとアルプス動物園」 日時：11月20日(土) 14:00～16:00 会場：大町市文化会館 対象：どなたでも ※参加無料・要事前申込み</p> <p>■さんばく子ども冬期だいがく 「雪上アニマルトラッキング」 期日：2月5日(土)・12日(土) 時間：各回9:00～12:00 会場：市立大町山岳博物館および近隣の雪原 対象：小学生とその保護者(定員20名) ※参加無料・要事前申込み</p> <p>■山のサイエンスカフェ inさんばく2022 期日：3月6日(日)・13日(日) 時間：各回13:30～16:00 会場：市立大町山岳博物館 講堂 対象：大人(各回定員30名) ※要参加料・要事前申込み</p>
5月 (15・16)		
6月 (19・20)		
7月 (17・18)	<p><b>企画展「北アルプスの誕生とそこに息づく高山植物の ものがたり—花・果実・種子・芽生え とまどきふしぎ発見!—」</b></p> <p>7月17日(土)～11月28日(日)</p> <p>■ミュージアムガイド 7月17日(土)、8月14日(土) 時間：1回目10:30～、2回目14:30～ 会場：市立大町山岳博物館 特別展示室 ※入館者対象(通常の観覧料が必要です)・申込み不要</p> <p>■さんばくゼミナール 「花と昆虫のしたたかて素敵なお関係」 9月18日(土) 時間：13:30～15:30 会場：市立大町山岳博物館 講堂 対象：どなたでも(定員30名) ※参加無料・要事前申込み</p>	
8月 (14・15)		
9月 (18・19)		
10月 (16・17)		
11月 (20・21)		
12月 (18・19)	<p><b>特別展「山の繪 —山岳風景画 さんばく収蔵コレクション—」</b></p> <p>12月4日(土)～3月27日(日)</p> <p>■ミュージアムガイド 12月5日(日)、3月20日(日) 時間：1回目10:30～ 2回目14:30～ 会場：市立大町山岳博物館 特別展示室 ※入館者対象(通常の観覧料が必要です)・申込み不要</p>	
1月 (15・16)		
2月 (19・20)		
3月 (19・20)		